

特別
対談

大森利夫 × そのだ修光

全国理容生活衛生同業組合
連合会理事長全国老施協常任顧問・理事
参議院議員心身ともにサツパリ！
訪問理容サービスは元気の源

今回は、介護施設でますますニーズが高まる「訪問福祉理容（訪問理容）」に取り組み、全国規模でのネットワークを活かした展開をめざす、全国理容生活衛生同業組合連合会（全理連）の大森利夫理事長のもとを訪ね、その重要性について語り合いました。

しています。

そのだ 具体的に、こういった取り組みをされているのでしょうか？

大森 セミナーを通じて、必要な知識や技術を身に付けて理容師の育成に努めています。加盟する全国5万以上の理容サロンは賠償責任保険に加入していますから、安心安全の面でも信頼がかけます。横のつながりもあるのです、いつもの理容サロンが

何らかの事情で出張できなくなったとしても、他の店舗を紹介できます。高齢者の方々に衛生的で快適なサービスを継続的に提供できるようにしていきたいですね。

そのだ 熱心に進めていただいているとお聞きし、ありがたく思います。高齢者にとっては、理容師とのコミュニケーションが生まれることも

元気の源となります。介護施設にはマッサージ、歯科など外部サービスを迎える仕組みがありますが、訪問福祉理容もさらに受け入れられるよう、仕組みづくりを進めたいと考えます。

大森 厚生労働省は、訪問理容を行うのは、理容師資格を持ち、かつ店舗を構えるプロがふさわしいという通知を出しています。全国老施協と全理連が協力し合いながら、超高齢社会における理容サービスを確立していきたいですね。

そのだ おっしゃる通りです。全国老施協には1万1500の加盟施設があり、多くの利用者が、そうしたサービスを待ち焦がれています。地域包括ケアシステムの構築が進むなか、医療や介護だけではなく、理容も大切な生活の一部です。全国老施協との連携の橋渡しをさせていただくなど、私も尽力していきたいと思っています。

大森 日本の超高齢社会に貢献できるのは、全理連としても大きな喜びです。
そのだ 大森理事長、本日はありがとうございました。

そのだ 介護施設は生活の場で、利用者の方は家で暮らしているのと同じこと。いくつになっても身だしなみは気になりますし、お化粧をしたり、髪を整えると元気が出ます。ところが、要介護高齢者が理容サロンまで足を運ぶのは大変で、訪問理容は欠かせないサービスですね。

大森 訪問理容は、高齢化社会にお

ける理容業界の役割の一つ。私どもは以前から「訪問福祉理容」と呼び、地域に根ざした活動の一環として取り組んできましたが、超高齢化のなか、ソーシャルビジネスの一つとして重要なサービスになりつつあります。全理連としては、訪問福祉理容を全国規模のネットワークを利用して展開できるシステムづくりをめざ

さらに詳しく知りたい方は、ホームページにアクセスしてください。

そのだ修光

検索

または、<https://sonodashuko.com/>



公式LINEアカウント：

<https://page.line.me/psd1500s>

LINEの「友だち追加」より

友だち登録をお願いします！

